【Zigzag-memo　No32】　対人関係適温

最近、目にしたものでとても心温まる、心強い言葉に出会ったので取り上げる。山形市「滝山地区　福祉だより」――第36号　令和7年4月――に記載された滝山コミュニティセンター　所長鈴木弘康さんの言葉である。その中で、特に考えさせられたフレーズを図(表)－1に抽出した。

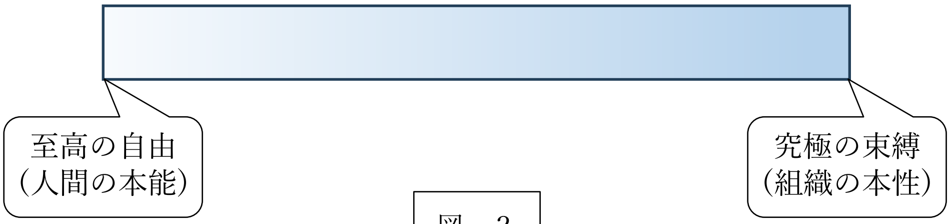
 滝山地区 福祉だより 第36号 令和7年 4月 発　行：滝山地区社会福祉協議会 こども・高齢者 見守りネットワーク つながるための適温 滝山コミュニティセンター　所長　鈴　木　弘　康	近頃、あらゆる組織で、「面倒、縛られるのがイヤ」と、勧誘しても人会を断わられるケースが増えています。・・・[①] 学校の道徳では、「親切・同情」は同格者意識の中で発せられるものとされています。上から目線の「してあげる」は親切ではないのです。・・・[②] 人間同士の距離感が難しい時代になりました。熱すぎず冷めすぎず、互いに心がつながる適温を見つけていきたいものです。幸せの花開く適温は必ずあるはずです。「③」

図(表)－1

［①］について

おぎゃと生まれた人間は至高の自由、究極の自由を与えられてこの世に授かったのである。よって、換言すれば、人間は至高の自由、究極の自由を本能に有し生きる動物なのである。人間は根源的に他人からの束縛を最も嫌う生物なのである。ところが、組織は、当該組織の目的達成のため、当該組織に属した人間を束縛・緊縛・拘束が本性である。　したがって、一人間と組織は、その根本的性格において、そもそも真っ向対立するような立場にある。

しかし、現実の社会生活・社会活動においては、何らかの組織に属さざるを得ない。その時、一個人と組織は、拘束度合いにグラデーション（図－2）を帯びた関係性で繋がることになる。



図－2

そこで、生活が懸かっているの（仕事）であれば、組織論理優先の拘束度合いが強くても我慢しつつ、心の奥底では嫌々しながら仕方なしに忠誠を誓った振りをするということになる。　しかし、私的時間（プライベート）においては、本能がむき出しに至高の自由を満喫したくなるものである。よって、私的時間（プライベート）における様々な趣味・イベントのサークルにおいては（も）、『つながりが緩々（ゆるゆる）』を欲し、仕事にあっては、自分の能力を最大限に発揮できる環境を求める度合いが強くなっている（裏返して、入社後短期間で退職希望者が続出）。

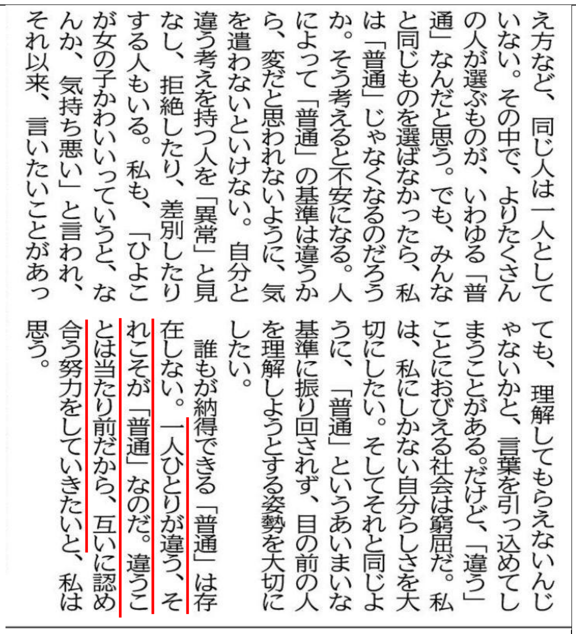
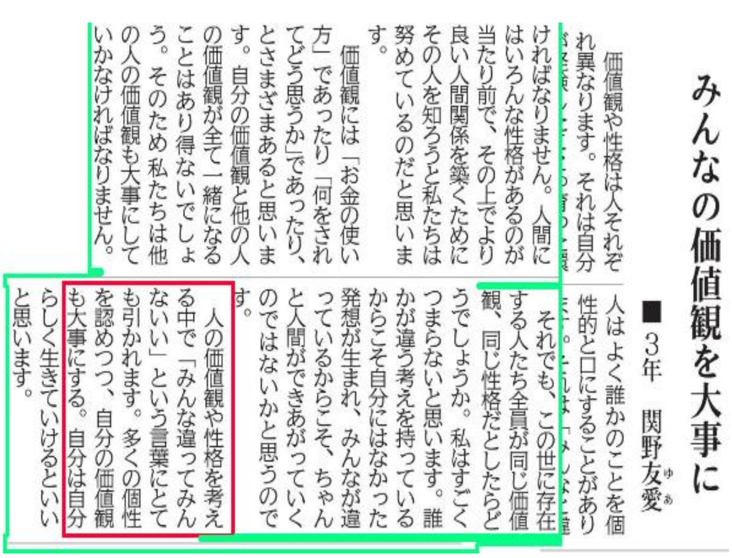
今の私は徹底的に「freedom　Freedom　FREEDOM」で生き、逝きたい！！！

［②］について

私は良好な人間関係・対人関係の醸成においては、互いの思想信条・主義主張の総てを包容した上で対等互啓（恵）の意識を持つことが肝だと意識している。　まずは、「何とか長」とは組織の中においてその職責・役職に応じたデスク（権限）に付与された呼称であり、人間性に付与されたものではないことを厳然と認識する必要がある。その閉鎖された組織を離れてもその「何とか長」がその人間に付着しているものだと本人も周囲も誤解するものだから、日本社会では同調圧力という上から目線の「してあげる」が当たり前だと無意識層に浸透しているのである。したがって、単一組織を離れた個人・組織の複数集合時空においては、その中で通用する権利・義務は、職業・年齢・学歴などにまったくの無関係の平等・対等、すなわち、同格であるという前提を強く意識する必要がある。まずは「敬する」「敬し合う」態度、敬には拓くの意味も含み、互いに拓き合う、すなわち、学び合って新しく世界を作り合うの意味を込めて対峙することが何よりも大切である。

［③］について

相方・関係人を包む適温は、①と②を合わせて自然に生まれ来る精神、関係性、間合いであろう。人間のアイデンティティ（尊厳・人権・人格）の根源を為す思想信条・主義主張、価値基準は、相手の言説で簡単には曲がらない、溶融しない、一番やっかいな性（さが）であるからは、まずはその相異をお互い認め合って、お互いがまずは飲み込んで、しかも、その違いを話題に披瀝出来る度量を持ちたいものだ、ひいては互いの承認欲求を満たし合うことになる。みなみな「お互い様」を強く意識することだ。　ここで浮かぶのが図－3・4のとおりの中学生の素晴らしい新鮮な、でも、当り前の感覚・感性である、この二人の熱い思いに感銘を受ける。

 え方など、同じ人は一人としていない。その中で、よりたくさんの人が選ぶものが、いわゆる「普通」なんだと思う。でも、みんなと同じものを選ばなかったら、私は「普通」じゃなくなるのだろうか。そう考えると不安になる。人によって「普通」の基準は違うから、変だと思われないように、気を遣わないといけない。自分と違う考えを持つ人を「異常」と見なし、拒絶したり、差別したりする人もいる。私も、「ひよこが女の子かわいいっていうと、なんか、気持ち悪い」と言われ、それ以来、言いたいことがあっても、理解してもらえないんじゃないかと、言葉を引っ込めてしまうことがある。だけど、「違う」ことにおびえる社会は窮屈だ。私は、私にしかない自分らしさを大切にしたい。そしてそれと同じように、「普通」というあいまいな基準に振り回されず、目の前の人を理解しようとする姿勢を大切にしたい。 誰もが納得できる「普通」は存在しない。一人ひとりが違う、それこそが「普通」なのだ。違うことは当たり前だから、互いに認め合う努力をしていきたいと、私は思う。	 みんなの価値観を大事に ■3年　関野友愛（ゆあ） 価値観や性格は人それぞれ異なります。それは自分[illegible]ければなりません。人間にはいろんな性格があるのが当たり前で、その上でより良い人間関係を築くためにその人を知ろうと私たちは努めているのだと思います。 価値観には「お金の使い方」であったり「何をされてどう思うか」であったり、とさまざまあると思います。自分の価値観と他の人の価値観が全て一緒になることはあり得ないでしょう。そのため私たちは他の人の価値観も大事にしていかなければなりません。 人はよく誰かのことを個性的と口にすることがあります。それは「みんな違[illegible] それでも、この世に存在する人たち全員が同じ価値観、同じ性格だとしたらどうでしょうか。私はすごくつまらないと思います。誰かが違う考えを持っているからこそ自分にはなかった発想が生まれ、みんなが違っているからこそ、ちゃんと人間ができあがっていくのではないかと思うのです。 人の価値観や性格を考える中で「みんな違ってみんないい」という言葉にとても引かれます。多くの個性を認めつつ、自分の価値観も大事にする。自分は自分らしく生きていけるといいと思います。
2019(令和元)年9月28日(土)開催の第58回山形県少年の主張大会において優秀賞に輝いた戸沢村戸沢中3年の荒木ひよこさんを紹介。翌月10月6日(日)付山形新聞	2023(令和５)年4月13日前後の山形新聞
図(表)－3	図(表)－4

ここで大問題！　お茶飲み話で、鈴木さんの話を話題に出そうものなら、“そげだ、難しい話すんな！”である。・・・こういう自分に素直になれず逃げる姿勢の大人を私は最も忌避する、つまらない。

(end)